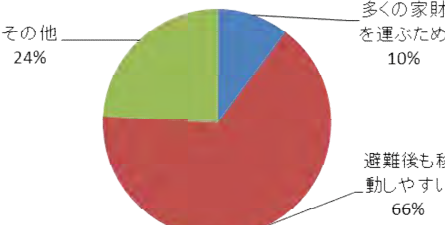

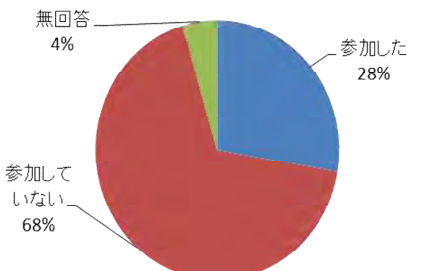
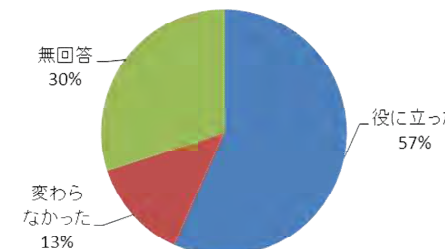


アンケート結果		評価・対策等
Q 1 0	(自家用車避難を選択した方へ) 自家用車避難の理由は？	
	 <p>多くの家財を運ぶため 10%</p> <p>避難後も移動しやすい 66%</p> <p>その他 24%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6割が避難後も移動しやすいためと回答。</li> <li>＜その他、自家用車で避難する理由＞</li> <li>・ 高齢や障がいにより集団行動が難しいため自家用車で避難する。</li> <li>・ 家族でまとまって避難するため。</li> </ul> <p>→今後自家用車の避難方法を普及啓発していく。</p>
Q 1 1	(自家用車以外を選択した方へ) バス・J Rの避難を選択した理由は？	
	 <p>自分で運転できない・車がない 17%</p> <p>渋滞や事故が心配 36%</p> <p>場所を知らなくても避難所へ到着できる 33%</p> <p>無記入 8%</p> <p>その他 6%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自家用車で避難する場合の渋滞や事故の心配、避難先の場所を知らなくても避難所へ到着できるという理由からバスやJ Rによる避難を選択した住民が約7割を占めた。</li> </ul> <p>→引き続き、バス・J R避難の課題を把握し、実効性を高める。</p>
Q 1 2	その他、今回の訓練や原子力防災に関してご自由にご記入ください。	
	<p>＜寄せられた意見（一部）とこれに対する対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃より避難経路、段階的避難について啓発活動が必要。</li> <li>→引き続き講演会・研修会の開催や現地研修会、住民説明会等の様々な機会を活用して周知していく。</li> <li>・ 風向きや強さを考慮して避難場所を選定してほしい。</li> <li>→避難先や避難経路等をモニタリング結果を踏まえて決定する。</li> </ul>	

アンケート結果		評価・対策等
＜原子力防災講座に関する質問＞		
Q 1 3	10月下旬に開催した原子力防災講座にご参加いただきましたか。	
	 <p>参加した 28%</p> <p>参加していない 68%</p> <p>無回答 4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで訓練当日に実施していた原子力防災講座を訓練効果を高めるため今年度から事前実施に変更。</li> <li>→事前実施については効果があったため次年度以降は事前広報の方法を改善し、より多くの方に参加してもらえる環境づくりに努めると共に、学んだ内容を反復学習できる体制について検討する。</li> </ul>
Q 1 4	(防災講座参加者に対して) 学習した内容は訓練で役立ちましたか。	
	 <p>役に立った 57%</p> <p>無回答 30%</p> <p>変わらなかった 13%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席者の半数以上が研修内容は訓練時に役に立ったと回答。</li> <li>・ 講座においてワークショップ形式で住民自ら防護措置について考える機会を設けた成果と思われる。</li> </ul> <p>→今後も同形式により引き続き実施していく。</p>

## 4、訓練評価員評価結果

鳥取県原子力安全顧問、他県職員に訓練評価を依頼。  
⇒第三者評価により、PDCAを回すことが目的

### 1、訓練評価の分担

訓練項目	評価者
本部等運営訓練	青山顧問、香川顧問、西田顧問、徳島県
緊急時モニタリング訓練	岡山県
住民避難訓練	占部顧問、青山顧問、片岡顧問、北田顧問、関西広域連合、京都府
避難行動要支援者避難訓練	遠藤顧問、片岡顧問、北田顧問、関西広域連合、京都府
緊急被ばく医療活動訓練	占部顧問、青山顧問、遠藤顧問、片岡顧問、北田顧問、関西広域連合、京都府
車両検査・除染訓練	占部顧問、青山顧問、遠藤顧問、片岡顧問、北田顧問、関西広域連合、京都府

### 2、評価結果

#### (1) 全般評価

各評価項目とも**おおむね的確**との評価であった。

良好な点	改善を要する点
<p>&lt;本部等運営訓練&gt; 11/17</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・EAL2の段階で、EAL3への進展を見据えた先行的な活動がなされていた。</li> <li>・道路や施設に関する情報が、UTM座標を用いて伝達されており、地名等が不案内な場合でも確実に把握できている。</li> <li>→机上地図で整理された内容が画面モニターに表示されれば更に良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者の避難車両の手配に関して、縦割りで検討がなされている。</li> <li>→計画担当課間での調整方法を検討し、細部計画に反映させていく。</li> <li>・FAXによる情報伝達が中心となっているが、ITの活用等も検討する必要がある。</li> <li>→原子力防災ネットワークを活用した情報共有の手法について検討していく。</li> </ul>
<p>&lt;緊急時モニタリング訓練&gt; 11/17</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・要員参集が速やかに行われていた。</li> <li>・防護服の着用、資機材の準備、要員の配置などスムーズに行われていた。</li> <li>・モニタリング結果をモニタリング共有システムに入力するなど、適切に対応がなされていた。</li> <li>・モニタリングデータについて、データ送信前に数値チェックが確実に行われている。(県モニタリング本部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要員の参集状況をホワイトボードに記載するなどして「見える化」を図ることで、更に良くなると思われる。</li> <li>・要員の被ばく管理の観点から、個人線量計の取扱いの確認等の習熟が必要。</li> <li>・モニタリング結果を報告する際には、数値を読み上げた上で、異常の有無を報告することが望ましい。(県災害対策本部)</li> </ul>

良好な点	改善を要する点
＜緊急速報メール＞11/19	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール文に「1週間以内に避難」と記載されており、緊急性が伝わらない。</li> <li>・住民広報を行う際には、もう少し時間を特定して広報した方が良い。→文面について見直しを行う。</li> </ul>
＜住民避難訓練＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの住民が避難開始時からカッパを着用していた。</li> <li>・訓練に参加された住民の方の意識が高く、住民の中のリーダーの方が中心となり、率先して行動されるとともに参加者に声かけなどをされていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・列車による避難は大量輸送が可能であるが、運行には周到的な準備が必要である。</li> <li>→具体的な運用方針について協議を進めていく。</li> <li>・一時集結所に参集される住民の方に対する情報伝達(ホワイトボードや掲示板での情報提供)を検討すべき。</li> <li>→一時集結所での情報伝達(方法、内容)を検討していく。</li> </ul>
＜安定ヨウ素剤予防投与訓練＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にわかりやすい説明がなされていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物の安定ヨウ素剤を用いて説明した方が良い。</li> <li>→訓練時の実施方法を検討する。</li> <li>・多くの方に説明内容がよく聞こえるよう、ハンドマイク等を使用した方が良い。</li> <li>→ハンドマイクの使用を徹底する。</li> </ul>

良好な点	改善を要する点
＜避難退域時検査訓練＞11/19 商業施設の活用	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型商業施設において避難退域時検査を行うことができた意義は大きい。</li> <li>・建物が頑丈であり、UD化もなされており、非常に適している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の発生時には、災害の規模や状況を考慮して選定場所を判断する必要がある。</li> <li>・複数の候補地点を選定することが望ましい。</li> </ul>
＜避難退域時検査訓練＞11/19 パネル式ゲートモニタ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射性物質の付着箇所をある程度特定できるため、検査の迅速化、効率化に有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大幅な検査時間の短縮に繋がらない。</li> <li>・設置作業等を考慮すると多くの台数を設置することができない。</li> <li>・検査記録の管理方法を明確化する必要がある。</li> <li>・お年寄りや体の不自由な方には、従前どおりの対人による測定の方が良い。</li> <li>→運用方法等を整理した上で、引き続き検証を行う。</li> </ul>

良好な点	改善を要する点
＜避難退域時検査訓練＞	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟効果が見られ、円滑に実施されていた。</li> <li>・多言語対応スタッフの配置、多言語対応の問診票など適切に対応されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所に入る際「検査済証」の提示が求められると思われるが、それらの説明がなされていなかった。</li> <li>→検査済証へ追加記載を行うなど周知方法を検討する。</li> <li>・タイベックを着用しておらず、防護措置が不十分である。</li> <li>→従事者の防護措置を徹底する。</li> </ul>
＜被ばく医療訓練＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者受入れにあたっての防護措置（汚染防護、測定測など）が適切に行われていた。</li> </ul>	
＜車両検査、除染＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査用資機材を専用コンテナに入れ、どのような場所にも持ち運び、運用できる体制は非常に優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなりの強風であったため、洗浄水が飛び散っていた。</li> <li>→強風時においても飛散を防ぐための運用や、除染テントの設置の向きや固定方法を検討していく。</li> </ul>

良好な点	改善を要する点
＜高齢者施設の避難訓練＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に手際が良く、スムーズに対応されていた。日ごろから、よく訓練されていることを感じさせた。</li> <li>・施設の職員が的確に行動されていた。</li> </ul>	
＜病院の避難訓練＞11/19	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院スタッフも慣れており、適切に対処されていた。</li> <li>・避難される患者への説明が適宜なされていた。</li> <li>・入院患者、職員の防護措置も適切になされていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチャーから担架への移し替えの場所に段差があり、ガタガタとやや不安定な場面が見られた。</li> <li>→安全な場所での引き継ぎを徹底する。</li> </ul>

## 5、防災関係機関からの意見等

### 【JR避難】

- ・列車を利用して避難するイメージをつかむことができました。
- ・列車に乗車される方に分散乗車をお願いしたが、協力が得られなかった。実場面では、乗車する時間の短縮が必要。

### 【患者輸送等】

- ・資機材や車両が汚染されて、使えなくなった場合の対応を検討しておく必要がある。
- ・救急隊員への汚染検査の実施方法等について整理する必要がある。

### 【船舶避難・船舶時の避難退域時検査】

- ・天候不良により、実訓練は実施できなかったものの、艦内で概要説明等を実施して対応した。県職員との調整により、円滑に実施できたと考える。
- ・今回と同等の訓練であれば、問題なく実施できるもの考える。今後、住民避難訓練をさらに発展させていくのであれば、瓦礫等で港湾が使用できない場合(地震による原子力災害を想定した場合)を考慮し、他の港湾での実施や、小型船舶の中継による人員の移送(沖合待機の海自艦艇に対し、港から小型艇により人を運ぶ)後の避難等について検討するのの一考である。
- ・次回以降、PRの観点から、住民避難時に報道陣を乗船させるの一考である。

### 【車両確認検査等】

- ・訓練中に質問を受けることがあったが、事前に質問をされる可能性があることを知らせていただけるとよかった。
- ・バスの状況(数分後到着予定)を適宜、教えてもらえるとありがたい。
- ・落ち着いて対応できたが、実際の災害時には、避難車両も多く、パニック状態になることが予想されるので、このような訓練を継続的に行い、できるだけ多くの方が訓練を経験する必要があると感じた。

## 6、成果・課題等

### 【Plan】

- ・ 地域防災計画(原子力災害対策編)、広域住民避難計画の修正(H27.8.24)
- ・ 社会福祉施設、医療機関等の避難計画策定

計画策定  
(平成27年度修正)

P

### 【Do】

- ・ 原子力防災訓練(H27～29)
  - ①計画上の会場が使用できない場合に、代替施設として大型商業施設で検査を行うための会場運営手順の確認
  - ②新たに整備した大型車両用除染システムの運用検証
  - ③パネル式ゲートモニタを用いた避難者の検査
  - ④原子力防災アプリによる情報伝達
  - ⑤住民避難開始までの屋内退避の実施 等

計画の検証

D

### 【Action】

- ・ 計画の見直し
  - ①原子力防災施設・資機材に係る整備
  - ②原子力防災訓練等を通じた見直し
  - ③放射線防護対策施設の機能強化
  - ④国の制度見直し等の反映

平成29年度分の  
修正に反映

A

### 【Check】

- ・ 原子力防災訓練等の検証
- ・ 原子力安全顧問等の意見の反映
- ・ 住民からの意見(パブリックコメント等)

C



訓練記録



訓練記録DVD



# 訓練の成果及び今後の対応

## 【本部等運営訓練（11月17日）】

- 県、市、オフサイトセンターとの情報伝達等の初動対応の手順を確認できた。
- 対策本部内に情報管理者を配置し、次々と来る情報を適切に整理し、管理することができた。
- 原子力環境センター（衛生環境研究所）を使用してモニタリング本部活動を行い、分析作業手順等の確認を行った。

## 【住民避難訓練（11月19日）】

### ○成果のあった点

- ≪反映≫計画上の避難退域時検査会場（避難者の放射性物質の付着を確認）が使用できない場合に、代替施設として大型商業施設で検査を行う場合の会場設営、運営手順が確認できた。
- ≪反映≫大型車両除染システムについて、輸送、展開、運用の一連の手順を確認できた。
- 住民の避難訓練において、住民が一時集結所に集まるまでの間、自宅で屋内退避を実施し、避難行動を行うまでの間の防護措置について体験いただいた。
- ≪反映≫コンクリート屋内退避施設への住民避難を実施し、複合災害（地震）により、自宅での屋内退避ができない場合の対応を確認できた。
- パネル式ゲートモニタを活用した場合の住民への検査手順等が確認できた。
- ≪反映≫原子力防災アプリを活用した情報提供の有効性が確認できた。
- ≪反映≫放射線防護対策施設への燃料補給について、石油供給事業者と連携した対応手順が確認できた。
- 事前に原子力防災講座（ワークショップ等）を実施し、住民が被ばくの軽減方法等を理解した上で訓練に参加いただけた。

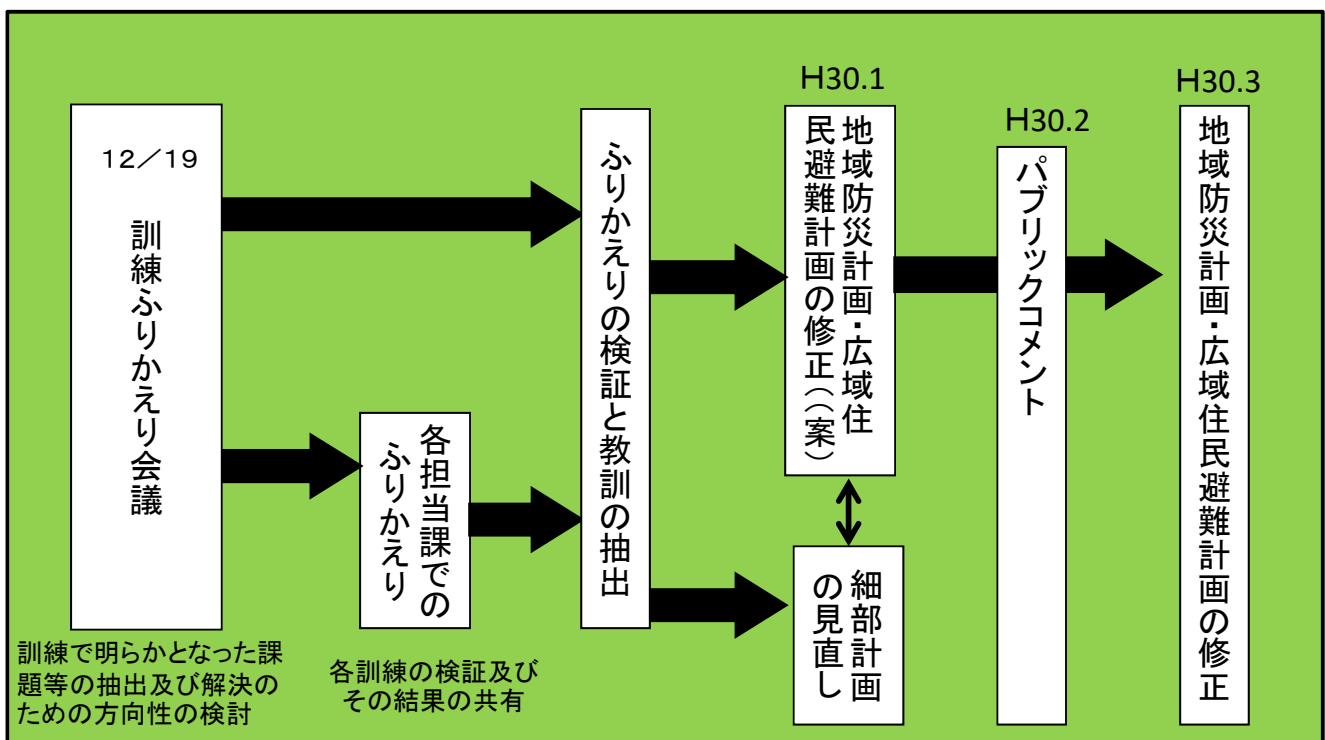
※≪反映≫は地域防災計画又は広域住民避難計画へ反映したことを表す

## ○改善を要する点

- ≪反映≫入院患者の搬送訓練において、航空自衛隊への情報伝達体制に不備があり、航空自衛隊から東部消防局への引継ぎ訓練が実施できなかった。災害時においても関係機関とのスムーズな意思疎通を行う体制の整備が必要。
- 強風時に大型車両除染テントが傾くケースが見受けられたため、荒天時における当該テントの取扱（固定方法）について検討が必要
- ≪反映≫ドローンによる情報収集訓練では、ドローンの飛行が天候に左右されることが確認でき、飛行実施基準を含めた運用方法について整理が必要。

※≪反映≫は地域防災計画又は広域住民避難計画へ反映したことを表す

## 7、今後の進め方



# 訓練実施結果

添付資料1・・・各訓練の概要

添付資料2・・・訓練全体概要



## 本部等運営（初動対応）訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
警戒事態発生時の初動対応、施設敷地緊急事態及び全面緊急事態での各防災機関における対応の手順の確認と通信連絡訓練の実施	・今回の訓練において、米子市、境港市、西部総合事務所、衛生環境研究所との情報伝達及び情報共有を確認することができた。	・図上訓練や情報伝達訓練等の実施等を通じて、継続的に取り組んでいく。	
災害対策本部内の情報管理体制の構築	・本部内に情報管理者を配置し、関係機関との間で受発信される文書等の情報管理を徹底したことにより、対応の漏れや遅れを防ぐとともに文書の整理、保管を適切に行えることが確認できた。	・対策本部内に情報管理者を設置することとし、業務の流れを整理し、マニュアルに反映させていく。	
国、OFC、2県6市のテレビ会議による、各自治体の対応状況等についての情報共有	・原子力災害対策本部会議及び原子力災害合同対策協議会全体会議をテレビ会議で行うことにより、国(中央)、島根OFC、島根県等の2県6市と対応状況等を情報共有することができた。	・引き続き、テレビ会議の開催時期、目的等を踏まえ、先行的に本県の対応方針を決定していく必要がある。	

## 本部等運営（初動対応）訓練の概要



## 避難退域時検査会場の運営等

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
<p>県が計画する避難退域時検査会場の代替会場として大型商業施設を使用する場合の検査手順等の確認</p>	<p>(1)検査会場としての機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大規模集客施設であり、広い駐車場を有している。また、半屋内の駐車場など検査スペースが確保できる。</li> <li>● 構内及び施設への出入口が複数箇所あり、車両や住民の一方通行が可能で、汚染の拡大防止を図ることができる。</li> <li>● トイレ等の設備も充実しており、仮設トイレの設置の必要がない。</li> </ul> <p>(2)検査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人に対する検査を立体駐車場でも実施が可能であることが確認できた</li> <li>● 屋内に検査会場を設営することにより、荒天時においても避難者の負担を軽減することができ、屋内検査会場の優位性が確認できた</li> </ul>	<p>原子力災害時に代替の避難退域時検査会場を選定する場合の基準や会場運営にあたっての留意事項を整備する。</p> <p>今回の訓練は、イオンモール日吉津の全面的な協力のもと、検査が実施できたものであり、平時から施設管理者等と連携を密にし、検査会場の状況を把握することが重要</p>	

## 避難退域時検査会場における訓練概要

**西館(屋外)**



**車両確認検査**



**西館3階**



**避難退域時検査**



**西館1階**



**避難支援ポイント・展示訓練等**

